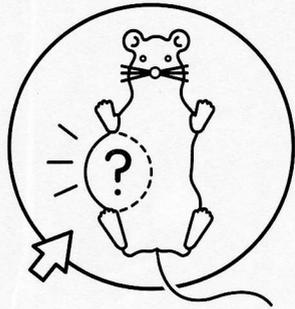


異例のロングランヒットを記録した『モンサントの不自然な食べもの』に続く、  
遺伝子組み換え食品の実態を追ったドキュメンタリー第2弾! (アップリンク配給)

## 遺伝子組み換え食品を食べ続けるとどうなるのか? 極秘に進められた研究に密着!

2009年、フランスである実験が極秘に進められていた。ラットの一生(2年間)に“遺伝子組み換えトウモロコシを与え続ける”と、どんな影響が起こるのか? 長年の疑問の答えが今明かされる。分子生物学者ジル=エリック・セラリーニ教授が行った「世界的に重要な実験」はフランス、EUだけでなく世界中に大きな波紋を投げかけている。その研究結果にカメラは密着。



セラリーニ教授  
(カーン大学)

ジュース、ビスケット、冷凍食品、肉…、地球上の子供たちが、知らないうちに遺伝子組み換え食品を口にしています。スーパーに並ぶ加工食品の80%に、遺伝子組み換え作物が混在しているのです。私たちはどんな未来を選ぶか考えなくてはなりません。(本編より)

GM  
実は、遺伝子組み換え  
食品輸入大国の日本。

日本はトウモロコシの世界最大の輸入国で、その量は年間1600万トン。約9割がアメリカ産で、アメリカのトウモロコシは88%がGM品種です(2011年USDA調べ)。主に家畜の飼料をはじめ、食用油、コーンスターチなどの加工食品の原料に使われています。

## “遺伝子組み換え”と“原子力”

いのちの根幹を脅かす二つのテクノロジーの意外な共通点

遺伝子組み換え作物の影響と同時に描かれるのが“原発がある風景”。

世界第2位の原発保有数58基が稼働中で常にリスクと隣り合わせのフランスと、福島第一原発事故以降の日本。その地に住む農家がどのような影響を受けたのか。

『未来の食卓』『セヴァンの地球のなかし方』で“食の重要性”を訴え続けるフランス人監督ジャン=ポール・ジョーがカメラを向ける。

“遺伝子組み換え”と“原子力”、いのちの根幹を脅かす二つのテクノロジーの三つの意外な共通点。そして浮き彫りにされる不都合な真実とは?

■日時 2014年10月4日(土)14:00~/10月6日(月)9:00~

■会場 東広島市市民文化センター 3F アザレアホール  
(東広島市西条西本町 28-6 / TEL082-424-3811)

■入場料 1,000円

■チケット問合せ・取扱い ゆずりは事務局 深谷まで (E-mail: t.fukaya0503@gmail.com)

■主催 ゆずりけ

10/6のみ託児有り

・子ども1名:500円

・9/22までに要予約

\* 詳細お問合わせ下さい